



ご挨拶

米国研究製薬工業協会
理事長 アランF. ホーマー

このたび、PhRMA「製薬業界プロフィール」2004年版をお届けできることを嬉しく思います。2003年は患者を重視したメディケア改革法案が議会を通過し、ブッシュ大統領が署名するなど歴史的な一年となりました。中でも、メディケア受給者が利用する医薬品を保険給付対象とする改革は質の高い効果的な治療には不可欠であり、38年におよぶメディケア・プログラムの中でも特に重要なものとなっています。このような取り組みは数百万人もの患者に利益をもたらし、その日常生活を大きく変化させています。この新しい法律は、1,000万人の高齢者が利用する医薬品を保険の給付対象に加える初めての試みとなります。これにより数百万人もの人々が、保険給付対象となる優れた医薬品を利用することができ、心臓病や脳卒中の予防、あるいは鬱病の症状を抑える医薬品などが身近なものとなり、医療面そして経済面においても優れた施策といえます。

本報告書では、革新に焦点を当てています。製薬会社の科学者たちは、最先端科学や技術を用いて医療の進展を図り、革新をもたらす新薬によって、患者の寿命が伸び、より健康的な生活を送ることが可能になっています。メディケア法改正により、受給者たちにとって健康や快適な暮らしに欠かせない革新がより身近なものとなります。

また本報告書では、2003年にPhRMA会員企業を対象とした調査結果を基にした新しいデータを掲載し、各社が新薬の開発に積極的に取り組んでいることをお伝えします。そして、政策当局による公共政策が、新薬や優れた医薬品への患者のアクセスや、これらの開発にどのような影響を与えているかを示しています。本報告書は統計的な報告が中心となっていますが、これらのデータは単なる数字ではなく、生きた数字なのです。つまり、米国をはじめ世界中の何千万人という患者が医薬品を通じて病状の改善・回復を遂げているのです。このことが、米国の製薬業界に身を置く私たちの活力となっているのです。